

令和 3 年度第 1 回コーディネーター部会の協議報告について

1 実施日

令和 3 年 8 月 1 6 日 (月)

2 令和 2 年度のまちづくりコーディネーター (以下「まちコ」という。) の活動報告

(1) 派遣 7 件

| 派遣依頼元 | 派遣内容 | 件数 |
|-------|-----------------|----|
| 自治会 | 住民会議のファシリテーション | 1 |
| 市 | ファンドレポート作成 | 3 |
| | 講座等のファシリテーション | 2 |
| その他団体 | 実行委員会のファシリテーション | 1 |
| 合 計 | | 7 |

(2) 定例会 5 回

例年は 10 回の実施をするが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、10 月、11 月、12 月、2 月、3 月の 5 回の開催となった。

(3) 交流会 1 回

例年 2 回を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、1 月の 1 回のみの開催となった。

3 令和 3 年度の活動について※まちコ登録人数 30 人 (うち活動中 24 人)

(1) 派遣 2 件

| 派遣依頼元 | 派遣内容 | 件数 |
|-------|-----------------|----|
| 市 | 講座等のファシリテーション | 1 |
| その他団体 | 実行委員会のファシリテーション | 1 |
| 合 計 | | 2 |

(2) 定例会 2 回

4 月、6 月に実施をした。7 月以降は定例会という形ではなく、3 つの「まちコゼミ」と、情報共有の場としての交流会を実施する試みを始めた。

(3) まちコゼミ※10月6日現在

| | 7月からの実施回数 | 参加人数 |
|-----------------|---------------|------|
| 守随ゼミ（ファシリテーション） | 1回 ※2回目 10/12 | 7人 |
| 大野ゼミ（オンライン支援） | 3回 | 12人 |
| 塚本ゼミ（広報） | 1回 ※2回目 10/15 | 2人 |

(4) 交流会

ア 11月27日（土）実施予定

イ まちコゼミ活動についての情報共有やまちコエンブレムのお披露目、まちコ個人の活動やそれ以外の活動について知る「収穫祭」を実施する予定

(5) つなぎの学び舎・実践編の受講状況

ア 受講生 9人（男性6人、女性3人）※オンライン実施

イ 参加者数

| | |
|-----|----|
| 第1回 | 9人 |
| 第2回 | 8人 |
| 第3回 | 6人 |
| 第4回 | 9人 |

ウ 第5回（10月30日）は刈谷市民ボランティア活動センターにてハイブリット開催を予定

(6) つなぎの学び舎・基礎編について

ア 受講生 9人（男性4人、女性5人）

※うち5人が実践編から引き続き参加

イ 刈谷市民ボランティア活動センターにて対面実施予定

(7) 部会での話し合いについて

ア まちコ定例会やゼミへの、まちコの自主的な参加が半数弱であり参加への工夫が必要であり、そのためにはまちコにとって魅力的な活動にする必要がある。まちコが他のまちコを誘えるような環境が欲しい。

イ まちづくりにおいては寄り添い型の支援にニーズがある。つなぎの学び舎実践編「企画運営お助け隊」のような活動も今後より必要である。

4 令和3年度以降のコーディネーターのネットワーク化について

(1) 経緯

ア 平成21年度推進委員会の協議において、コーディネーターを育むための3つの方策を策定し、方策1、2はまちコの登録制度とつなぎの学び舎によって実践したが、方策3つ目の「ネットワーク化」は現状未着手である。

【方策1】登録制度：地域に存在が見えやすく、お互いの情報循環がしやすくなること

【方策2】育成研修：学ぶことで力が高まること、担い手が増えること

【方策3】ネットワーク化：コーディネーター同士が繋がりあって解決力を高めること

イ まちコとまちコ以外のコーディネーターとのネットワーク化を検討するにあたり、まずは「まちコ以外のコーディネーター」を顕在化させたい。

(2) 調査先コーディネーター案

ア 自治連合会

イ スポーツ推進委員

ウ 福祉委員会

エ 地域包括センター

オ 防災ボランティア

カ 民生・児童委員

キ 子育てコンシェルジュ/子育て支援センター

ク 多文化共生/刈谷市国際交流協会

ケ 学校/地域学校協働活動推進委員

(3) 予定

上記を参考に、2～3の団体にヒアリングを実施し、第2回コーディネーター部会にてヒアリング内容の報告予定

令和 3 年度第 1 回夢ファンド部会の協議報告について

1 実施日

令和 3 年 6 月 23 日（水）

2 これまでの実施事業および寄附金実績について

(1) 内容

令和 2 年度にコロナウイルスの影響で開催できなかった、コラボ 70 補助金事業については特別に令和 3 年度へ延期することとした。寄附金実績としては、毎年度、30～40 万円程の寄付をいただき、マッチングギフト方式により市も同額を払い出すことから、合わせて 60～80 万円が基金に積み上げられている。

(2) 主な意見

コラボ 70 補助金事業で延期した事業のうち、補助金を前払いした事業は何件あるか。

→ 5 件

3 令和 3 年度募集要項等について

(1) 内容

まちづくり活動支援事業補助金、NPO 法人設立支援事業補助金の募集期間は 7 月 15 日から 9 月 30 日までである。まちづくりびと支援事業補助金は 4 月 1 日から募集を開始している。

(2) 主な意見

まちづくりびと支援事業補助金に関して、研修に参加する団体は多くあるものの補助金制度自体が知られていない可能性があるため、PR を強化いただきたい。

→必要としている人に情報を届ける工夫を検討する。

4 コラボ 70 補助金事業について

(1) 内容

令和 3 年度に延期した事業は 11 件である。平成 31 年度（令和元年度）

に計画されたものであるため、多くの人を集める事業が多い。コロナ渦において開催するには事業規模を縮小したり、内容を変更したりする必要があり、変更内容について相談が寄せられている。そこで、令和3年度に延期した団体を対象に内容変更に関する意向を確認するため、アンケート調査を実施した。

アンケート結果から、ほとんどの団体は令和3年度下半期に事業を実施する予定であり、概ね予定通りもしくは規模縮小など若干の変更が予定されていることが確認できた。今後もコロナウイルスの状況により、実施に向けた事業内容の変更は原則認める考えである。

(2) 主な意見

コラボ70補助金を令和4年度に再度繰り越すことができない、ということをご該当する団体に伝えてあるか。

→令和4年度への繰り越しは不可と伝える。

令和 3 年度 市民協働事業進捗状況一覽

| | 事業名 | 概要 | 実施内容 |
|---|--------------------|---|---|
| 1 | 共存・協働のまちづくり講座（学習編） | 共存・協働のまちづくりを進めていくため、市民と行政が協働を進めていく上での考え方と、行政の対応の仕方について学ぶ。 | <p>(1) 受講者数：入庁 3 年目及び 4 年目の職員、これまで共存・協働のまちづくり講座（学習編）を受講していない職員 64 人</p> <p>(2) 大野裕史氏に、「協働するとはなにか」について市職員の立場や役割を鑑みながら講義をしていただいた後、市職員からも「共存・協働心得帳」を基に共存・協働をすることとは何かについての話をした。</p> <p>(3) 地域づくりコミュニティネットゲームを使用し、限られた資源や条件をつかって、どうやって目的に対して物事をコーディネートしていくかを考えるグループワークをした。</p> |
| 2 | つながるねット | 刈谷市、知立市、高浜市、東浦町間の市民活動情報サイトで、イベントや団体に関する情報の閲覧、参加者やボランティアの募集・申込等ができる。 | <p>例年、各市町のイベントにつながるねットPRのためのブースを設けていたが、昨年度に引き続き福祉健康フェスティバルが中止となったため、つながるねットの周知を図るためのスタンプラリーを開催予定。</p> <p>刈谷市、知立市、高浜市、東浦町の公共施設等にて、つながるねットのQRコードを載せたスタンプラリーの台紙を配布する。つながるねットを開くと、サイト上に掲載した各市町に関するクイズ4つを確認することができる。各市町のボランティアセンターへクイズの答えを確認に行くこと、スタンプと景品をもらうことができる。</p> |
| 3 | 協働のまつり場 | 市の施策に関して、市民・地域団体・市民活動団体等と行政が意見交換する。 | <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を調査するために、改めて令和 3 年度中に全庁を対象にアンケート（市民協働診断）を実施する。</p> |

しゃべり場のこれまでとこれから

2021年9月29日

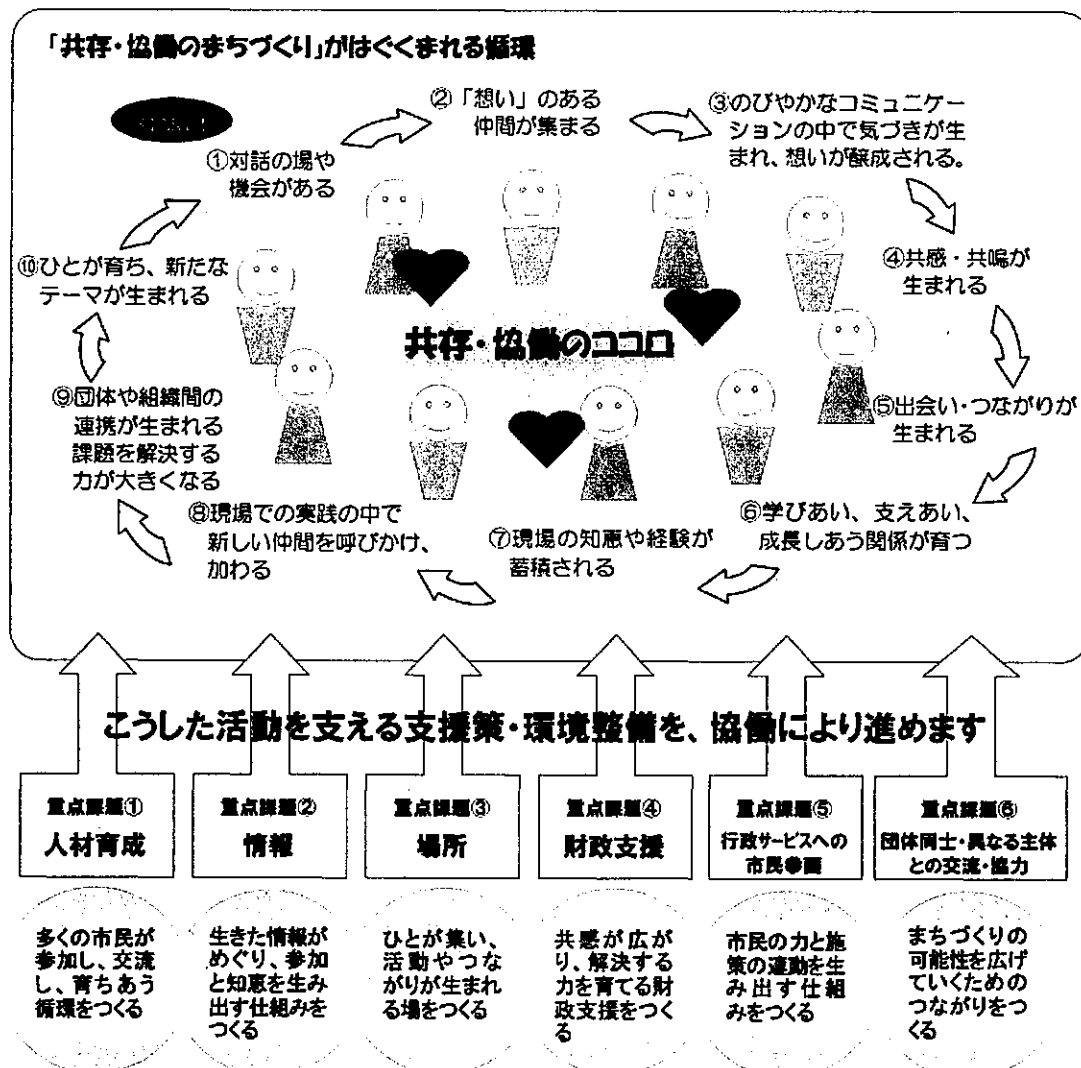
1.しゃべり場開催の経緯

- ・「刈谷市・市民との共存・協働推進基本方針」(2009年2月策定)を検討する過程で、同検討委員会と共に、市民の意見を充分反映した内容になるよう「市民ワーキング会議」を設置した。
- ・しゃべり場は、市民ワーキング会議で、基本方針の骨格の市民へのお披露目の場を、一方通行で説明するのなく、市民が刈谷のまちをどうしていきたいのか「自分ごととして語り合う場をにしよう」との目的で生まれた。→第1回目=2008年6月1日に実施。参加者123名。

2.しゃべり場の特徴

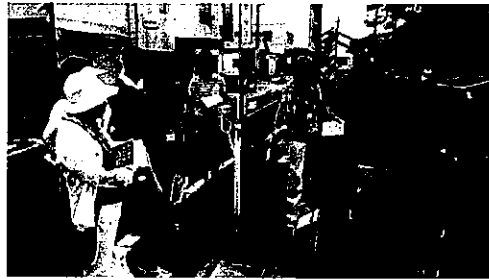
| | |
|------------|--|
| 最終目標 | 「刈谷のまちをよくしたい」と思う市民が増えること |
| 大切にしている価値観 | 「対話のココロ」=相手の想いに耳を傾け、語り合う人々の中でこれまでにない新たな気づきや発見が生まれ、それを皆で共有すること |
| 運営形態 | ワールドカフェ方式(小グループで席替えを繰り返しながら、参加者全員が話し合っているような効果をねらうこと)を軸にして、「ゲストに来てもらう」「まち歩きをする」「しゃべり場後に、気づきや今後のアクションについて話し合う」等の要素を、その年の開催趣旨に応じて組み合わせながら、行っている。 |
| 企画運営 | 市民有志による企画運営会議(4回程度)で内容検討。近年はまちコが進行お手伝い。 |

3.共存・協働のまちづくりの中の位置づけ(基本方針 p.22) = 「①人材育成」の位置づけ





▲小グループに分かれて話し合い



▲まち歩きと組み合わせて行った年も

4.各年のしゃべり場の概要と概括

| 開催日 | テーマ等 | 参加者数 | 備考 |
|-----------|---|------|-------------------------------------|
| 2008/6/1 | 「地域」「子育て」「環境」「福祉」「安心安全」のテーマ。小グループに分かれて話し合い。 | 123人 | ■しゃべり場後の自発的な動きとして「刈谷のまちをよくし隊」が誕生 |
| 2009/11/1 | ワールドカフェ方式で13テーマを設定(以下、WC) | 93人 | 終了後に「まち歩きの会」発足 |
| 2011/1/23 | WC 16テーマ | 91人 | ●2/13 芽吹き集い。「自分ができること」を語り合う |
| 2012/1/29 | 未来の刈谷のためにしたいこと | 70人 | ●2/12 芽吹き集いでグループ誕生「対話の場づくり」心得帳を作成 |
| 2013/1/27 | WC 11テーマ | 74人 | △ゲスト：蒲氏「長良川おんぱく」 |
| 2014/1/25 | WC 12テーマ | 62人 | △ゲスト：熊谷氏「日進野菜塾」企画メンバーが進行を担当 |
| 2014/8/3 | みんなで語ろう、北部でしゃべろう | 39人 | ☆初の出前開催。午前まち歩き 午後しゃべり場 |
| 2015/3/1 | WC 11テーマ | 43人 | フリートーク時間を設置。以降、実施。 ●5/31 ふかまり編 |
| 2016/2/6 | WC 12テーマ | 47人 | Fbの広報等で若い参加者が来る ●3/20 ふかまり編 |
| 2017/1/22 | WC 9テーマ | 30人 | ●2/12 ふかまり編 2つ自主的な動き |
| 2018/1/28 | WC 11テーマ | 37人 | ●2/25 ふかまり編「これから私は〇〇をする」にいいね！シールを貼る |
| 2019/1/19 | 「まちを楽しくしてくれる人ってイイネ！」万燈祭、カリヤナイト等7つのテーマ | 40人 | △市内のまちづくりで活躍するゲストのプレゼンの後、囲んでトーク |
| 2020/2/2 | 「ボクらのチカラが刈谷を元気に！」 | 37人 | △市内で若者が活躍する3つのグループをゲストに呼び、囲んでトーク |
| 2021/2/7 | 「コロナ禍だけど、みんなどうしてる？」を基本テーマに、3つの小テーマで | 18人 | オンライン開催。ブレイクアウトルーム機能を使ってトーク。 |

●市民の共存・協働のココロを育むために「敷居が低く安心して語り合える場を」というねらいから、下図の左下の位置づけが基本であった。他方で、テーマを設けたり、行動につながる2回目の場を設けたりという試行錯誤もされてきた。共存・協働のまちづくりの事業として、例えば切り口をローテーションにし、中期で見れば総合的な人材に出会い育む場となるといった方向性を現在検討中である。

